

株式会社大東銀行 様

直接話すように熱意が伝わる。動画を使った社内への情報提供に
MediaDirector で編集したビデオを活用。

大東銀行では20年ほど前から自社内でビデオを制作し、全64か所の本支店や関連会社に配布している。役員や各部部長のメッセージなど、話し手の「想い」が正しく伝わるように納得のいくまで撮り直し、編集されるビデオ。現在その制作にはEIZOのMediaDirectorが使用されており、その操作性の良さが、編集の効率化に役立っているということである。



同社がビデオ制作を始めた当初は、毎月行われる役員のモーニングメッセージや社内行事などを社内向けに、地域行事や商品紹介などをお客様向けに、と毎週のように制作されていた。現在はIT化が進んだため一部の情報がE-mailで配信されるなど状況は変化したが、半期ごとの各部部長の業務基本方針説明や、役員からのメッセージなどについては、継続してVHSテープで社内に配布されている。ビデオ撮影から編集までを担当する総合企画部広報室

調査役の貝沼氏がMediaDirectorを使って初めて制作したビデオは、2003年6月、頭取交代に際しての就任挨拶であった。

動画の方が「想い」が伝わる

貝沼氏は動画（ビデオ）を活用した社内への情報提供の有用性について、「紙で渡されてそれらの情報を読むよりも、実際に話しかけられて聞いた方がリアリティがあり、想いが伝わりま

す。また頭取などに直接会うことがなかなか無い社員もいる中で、画面を通してですがコミュニケーションづくりにも役立っているのではないかと考えています。業務基本方針に関しても各部部長から直接伝えられることにより、大変意義があると思います」と話す。

機器選定には業務の効率化を重視

以前使っていたリニアの編集システムが故障したため新しいシステムを導入することになり、紹介された複数のシステムの中から、MediaDirectorを選んだ。選定に際しては、限られた予算内で、使いやすく業務の効率化に繋がるものを、という視点で検討した。「重要なメッセージなので、必要であれば何度でも撮り直し、良い部分を選定して編集し、納得のいく内容に仕上げたいと考えます。話し手が熱く語りかけているのが伝わらなければ意味がありませんからね」と貝沼氏。だからこそ、操作性の良さが重視されるポイントの一つとなった。

慣れた作業で簡単に編集ができる

貝沼氏は通常の業務でもパソコンを使用しているので、慣れた作業で編集できるのは大変分りやすいと話す。「特に、不要なシーンをカットして必要なシーンだけをつなぎ合わせるトリ



15台のビデオデッキを使って全拠点向けのテープがダビングされる



ミング作業が感覚的に分りやすく、効率も良いと思います。また、タイトルやテロップを入れるのが以前のシステムより断然簡単になりました。」(貝沼氏)

以前はアナログ撮影・リニア編集だったものが、MediaDirectorの導入を機にデジタル撮影・ノンリニア編集になったことで、編集の容易さはもちろん、画質の良さにも驚いたということだ。現在はできあがった映像をVHSにコピーして各所に配布しているが、「将来的にはDVDという形での配布も考えていくべきでしょうね」と貝沼氏は話す。



■株式会社大東銀行

1942年大東無尽株式会社として設立。その後1951年に株式会社大東相互銀行、1989年には株式会社大東銀行と改称。店舗は福島県内と県外2か店の全64か店。『地域発展への貢献』『お取引先との共存共栄』『健全経営の堅持』『未来への挑戦』『活力ある行風の確立』を経営理念に掲げる。

〒963-8004 福島県郡山市中町19番1号

株式会社ナナオ 〒924-8566 石川県松任市下柏野町153番地

営業1部 (03)5715-2011 名古屋 (052)232-7701
大阪 (06)4807-7707 福岡 (092)715-7706
北陸 (076)277-6790 営業2部 (076)277-3922

www.eizo.co.jp

EIZOは(株)ナナオの世界統一ブランドです。